



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

口腔機能における舌の働き

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

口腔機能といえば皆さんは何を思い出しますか？言葉を話したり、食べたり、飲んだりすること—すなわち発音機能や咀嚼機能、嚥下機能を思い浮かべると思います。もちろんこれらはお口の主要な機能でとくに咀嚼機能—口に入れた食物を噛み砕き、あるいはすりつぶし、唾液と混ぜ合わせ飲み込める状態にする機能—については私たち歯科医師は乳児から高齢者まで全ての年齢層の方に対し、機能が健常に育成され、健常に構築された機能ができるだけ長く存続するために歯科医学の知識と技術の全てを一人一人の患者さんに注ぎ込んでいます。

咀嚼機能によって飲み込める状態になった食べ物を専門用語では食塊といいます。飲み込める状態が食塊ですから、飲み物は口に入れる前から食塊というわけです。食塊が形成されるまで私たちは食べ物の噛みごごちや食感そして風味を楽しみます。また暖かさや冷たさといった温度も食の喜びの一つです。この咀嚼機能が十分実力を発揮するためには、歯とそれを支える歯周組織、上下の顎、そして下顎を動かす筋肉とその動きを支える顎関節これら全てが健常であることが必要です。

さて、これらの器官全てが健常であれば、咀嚼はスムーズに営まれるのでしょうか？大切な器官を忘れていました。それは舌です。咀嚼中に咬み合わせの部位に食物を送るという重要な役割を舌は担っています。例えば舌運動に関係する神経とか筋肉の疾患あるいは舌腫瘍の術後などで舌を動かすことができなくなると咀嚼器官が健常でも食べ物を咬むことができなくなります。

舌を動かさないようにして何でも結構ですから食べ物を咀嚼してみてください、舌が咀嚼においていかに重要な働きを担っているかがすぐに理解できます。嚥下機能においても同様に舌はたいへん重要な役割を担っています。試しに舌先を前方に突出したまま飲み込んでみて下さい(60歳以上の方は決してやらないで下さい)。無理やり「のど」を動かしてやっとなんでいませんか。



発音において舌が重要な役割を果たすことについては皆さん十分おわかりだと思います。

咀嚼機能、嚥下機能、発音機能のほかの口腔機能としては呼吸の経路としての機能とコミュニケーションの道具としての機能があります。通常は呼吸の経路として鼻腔を使っていますが、鼻づまりの時や酸素の供給路が鼻腔だけで足りない時(例えば運動時など)には口呼吸は生命維持に欠かせない機能となります。睡眠中に舌がのどの方に沈み込み呼吸が止まってしまう閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群については8月号の巻頭言で説明しました。口呼吸のみならず鼻呼吸も含め呼吸をしっかりと行うためには舌が適切な位置にあることが必要です。さて、コミュニケーションの“道具”としての口腔機能とりわけ舌の役割はどうでしょうか。「ベー！」は英語では“Beh!”で用途はほぼ一緒のようです「舌打ち」は英語ではtut-tutting(独語は語頭が大文字)で、不快を表す“道具”として世界で広く使われています。私も舌打ちされませんようにこの辺で終わりにしましょう。



写真5 舌接触補助床の新聞記事。本装置により嚥下障害が改善したことが紹介されている。

これらの機能改善装置のほか、下顎がんの術後の合併症のため大きくずれてしまった下顎を正常な位置に誘導する下顎復位装置とそれを用いた誘導法を独自に開発しました(写真6)。

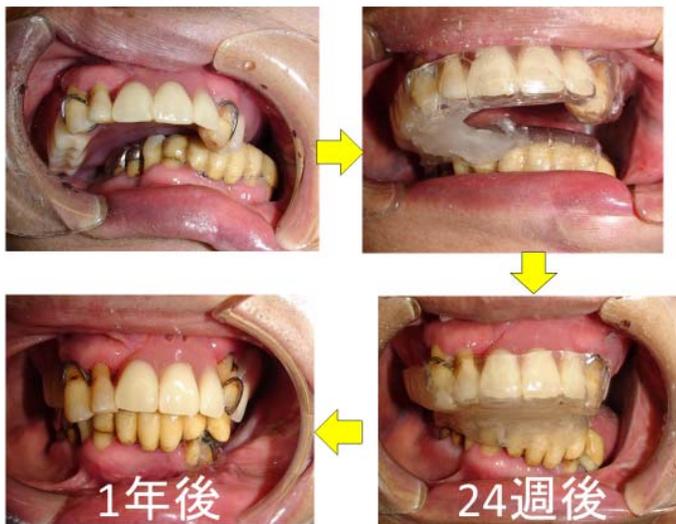


写真6 当科オリジナルの下顎復位装置による下顎の誘導。

また嚥下障害を診断するための透視画像検査において、検査中の患者さんの姿勢や表情と嚥下時の呼吸音を透視画像とともに記録するシステム

を世界に先駆けて構築しました(写真7)。現在では、この診断システムは日本全国の病院に普及しつつあります。



写真7 当科の嚥下透視検査画像 (患者さん検査時の表情や呼吸音などを同時記録)

当科の口腔機能リハビリテーションを求めて遠方の国立大学歯学部あるいはがん専門病院、日本を代表する特定機能病院などから患者さんが紹介来院されています。さらに中小の病院や個人医院、歯科医院からも患者さんが紹介来院されています。また当科では患者さんの主治医の要請に応じ、介入密度の極めて高い集中入院加療も提供しています。

さらに複数の地域歯科医師会と連携して区立特別養護老人ホームにおいて要介護高齢者の食の支援も行っています。長寿国のフロントランナーであるわが国では要介護高齢者の増加は避けられないのが現状です。当科は口腔機能障害の診療を通じ、高齢者の健口を取り戻すべく、最大限の努力を今後も払っていききたいと思います。

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二



口腔リハビリテーション科 スタッフ

熊本地震災害支援募金活動についての御礼とご報告

平成28年熊本地震により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。

この度、本学では熊本地震で被災された皆様を支援するため、募金活動を4月21日から7月31日まで実施致しました。皆様の心温まるご支援、ご

協力に深く感謝申し上げます。

募金総額：¥423,711-

※お預かり致しました募金について、日本赤十字社および被災された本学同窓生へお届け致しました。

事務課

特別養護老人ホーム夏祭りに参加しました

私達は、平成24年より特別養護老人ホームの夏祭りに参加しております。

歯科医師、歯科衛生士、臨床研修歯科医師より参加希望者を募り、ボランティアチームを結成し、「お口の健口体操」など合計3ステージでテンポの良いリズムに乗せた運動を紹介しました。

内容については、入居者や入居者のご家族、施設職員や近隣地域の方々からも大変好評でした。今後ともこのような活動を継続し、地域に貢献していきたいと思っております。

高齢者歯科 助教 桑澤 実希



歯科衛生士ボランティアチームによるストレッチ体操

公開講座開催 報告

10月15日(土)13時より、飯島副院長の司会にて、精神科・高塩准教授「認知症を理解して、上手に対応する」、口腔リハビリテーション科・高橋教授「介護予防と口腔ケア～お口のトレーニングを紹介しましょう～伸ばそう健康長寿 食べる幸せ、生きる力は健口から」の講義が行われました。43名が参加、歯科用品等がプレゼントされました。

開催に際して、ご尽力下さいました皆様ありがとうございました。事務課



精神科・高塩准教授



口腔リハビリテーション科・高橋教授

編集後記

先日まで10月に入って涼しくなるかと思いきや4日には都内で最高気温が32度となり、さらに6日も最高気温が31.3度と真夏日を二日記録したのち、一週間後の13日には最高気温が18度にも達しない17.8度となり、とにかく今月は異常気象であることだけは間違いないようです。皆様、汗をかいたり、寒さに震えたりとたいへんですが、頑張って乗り切りましょう。そのためにも秋の食材を楽しみながら毎食しっかり咬んで、ほど良い量だけ食べましょう。それには健口が不可欠です。当院はあなたの健口を築き、守るため予防から治療、メンテナンスまで全力を尽くします。秋の味覚を楽しみましょう！！ (K.T)